

## 議事要旨

1 会議の名称 令和7年度 第2回掛川市子ども・子育て会議

2 会議日時 令和7年10月31日（金）13時30分～15時30分

3 開催場所 掛川市役所 4階 会議室1

4 出席した者の氏名

（1）委員 13名出席／17名

（2）執行機関 (事務局)

5 会議録

掛川市こども計画について事務局より説明した上で、3つの部会に分かれてグループワークを実施した。その後、各部会で出た意見を全体で共有した。こども・若者の居場所部会、子育てと仕事の両立支援部会、出会い・結婚支援部会で出た主な意見は以下のとおり。

以下、○は委員からの意見、●は事務局からの回答

### 3 掛川市こども計画について

○結婚した後の支援（不妊治療、こどもが産まれたあとの支援）は計画内では触れてはいるが、5つの挙げた重点施策に加えて入れた方がいいと思うが、どのように考えているか。

●これまでの計画（子ども・子育て支援事業計画等）は「子育て支援（産まれた後の支援）」を中心とした計画であったが、こども計画はその前の支援についても記載している。個人の価値観が多様化する中であって、「結婚したい」、「こどもが欲しい」と思う方への後押しが重要と考え、計画内に盛り込んでいく。この後の部会でもそういった内容の意見を積極的にいただきたい。

### 4 各部会でのグループワーク 5 各部会での意見の共有

#### 【こども・若者の居場所部会】

【全体共有】

◎居場所の果たす役割

①安心安全であること

②仲間との協力、自分の存在意義が示せること

③他者とのコミュニケーションが取れること

④相談や支援ができること

・「ここに来れば何とかなるよ」と言える「場所」、仲間であり、信頼できる「ヒト」が重要で、「ヒト」「場所」「地域」がつながっていくことが大切である。

・居場所は、当事者（参加者）が受け身ではなく、能動的に主体的に参加し、社会での活動を作っていくことが大切である。意見が合わなかったり、皆と違ったり、間違ってもよく、そこに生まれる「切磋琢磨」の経験をしてほしい。若者にもたくさん参画してほしい。非認知能力が大切で、それは主に幼児期の体験が必要であるが、コロナ禍で人との接点がなく、育たなかつたこどもたちが多くいる。

・居場所ができることで、居場所を作っている方たちの居場所にもなる。そこに、若い人の力を発揮できる場所やチャンスがあることが大切である。西部地域の特性として、祭りも大切な居場所となりうるので、幼少期から参加しやすい雰囲気作りが重要である。また、こども食堂や無料の学習支援場所が本当に使ってほしい人に届くためには対象者を限定しすぎないことも大切である、色眼鏡で見られず、引け目を感じない参加ができるような配慮が必要である。

・家庭も居場所の一つであり、さらにたくさんの居場所がある方が、豊かな人生を送ることができる。

## 【主な個別意見内容～各立場から考える「居場所」のあり方】

- ・ボランティアで、小中学生の居場所を考えている。暑くて外で遊べないことも多かった中、友人宅は親が在宅していないと行けず、一人っ子は、学校と家庭しか居場所がない。異学年との関わりもないで、居場所を増やしたい。
- ・児童相談所との関わりとしては、ハンデのある方の自立生活援助拠点事業はある。他市在住だが、掛川市在住者からは、mirocco や駅前の学習スペースのことは聞いている。西部の地域性として祭りが熱心であり、地域に根付く1つの居場所だと思う。
- ・社会教育委員の今年度から2年の研究テーマが「安心安全な居場所」であり、委員も居場所に関わる方がいる。どんな居場所が求められ、必要な要素は何かを考えている。安心感、快適性、地域のつながりが必要であり、まち協の協力も求めたい。
- ・近年、若者の問題行動は少ないが、ネット上が危ない。見えない危険性がある。次年度は、部活動が地域のクラブ活動へ移行し、地域縦ぐるみで取り組む居場所でもある。
- ・昔の居場所というと、空き地などがあり、リーダーがいて、というイメージだが、今は、ちょっとしたことでも通報されてしまう。地域とどう展開できるかが必要である。
- ・地区まちづくり協議会で、子育てママさんの支援をしており、こどもを預かり、自由な時間を持つてもらっている。暑い時期は、こどもたちにも中に入ってもらって遊べるほか、学びの部屋も行っている。ここに来れば何とかなる、という場を作りたい。
- ・居場所の役割は、安心感と多様性、そこに信頼できる人がいることが大切である。「場所」とともに「人」が大切である。
- ・安心できる人・場所に、主体的に関われる居場所が大切である。全てを与えることなく、でこぼこした状態があれば自分で考えられるようになる。幼児期がコロナ禍で、コミュニケーションがなく切磋琢磨もないまま思春期になった子もいる。行政だけでは無理であり、足りないくらいの所から、自分で居場所を探すこと、自分で作り上げ愛着を持つこと、という経験が大切である。
- ・揃っていないところから作り上げる、参画する場所が必要である（お客さんにしない）。認めてくれる人と場所があり、自分が活かされた経験が大切である。
- ・オルタナティブスクール等では、学校でできない取組みをしており、こういう居場所も認知度を上げたい。こども食堂の運営側に大学生がおらず、高校生・大学生とNPOを繋ぐことも必要である。
- ・居場所を作る人たちにとっても、そこは居場所である。
- ・大学生などは、色々なコミュニティに参加しておく必要がある。祭りは大きなコミュニティであり、参加しやすくなればUターンにも繋がる、幼少期から地元の良さを学ぶことが大切である。
- ・学校で非認知能力を身につける機会が増えていくと良い。
- ・居場所に来た子が大人になって運営側として戻ってくるような循環型の居場所になると良い。
- ・ソーシャルビジネスとして成り立つ居場所の運営を推奨していく。（補助金は恒久的でない）

## 【子育てと仕事の両立支援部会】

テーマ① 子育てと仕事の両立支援をより一層推進するため、何が必要か？

行政がやるべきことは？事業所の皆さんに期待することは？

### ◎現状

- ・特に若い女性は、くるみん認定を取得しているなど、育休が取れるかどうかが職を選ぶ際の重要なポイント。ワークライフバランスを大事にする若者が多く、企業は求人票に記載し、そこを若者は重視する傾向。
- ・育児休業法の改正など、制度は充実し、かなり育児休暇がとりやすい環境になっている。ただし、企業がどこまで制度を理解し、就業規則に反映しているかは別問題。園でも、0歳児を預ける人が多く、育児休暇が取れない企業が多い印象。
- ・自分が勤務している企業（大企業）では、男性の育児休暇取得が約8割。近年、取得がすごく増えている。一方で、中小零細企業では、育児休暇が取りにくい企業もある。妻は出産後3か月で仕事復帰している。中小零細企業では育児休暇を取得する1人分の穴を埋められない。
- ・物価高の中あって、企業としては、賃金の引き上げが最重要課題。働かざるを得ない状況。生産性を上げていかないと、賃金も上がっていかない状況。

- ・子どもの数は減っているが、学童保育の利用率は増加している。利用者も微増。核家族化、両親共働き世帯が増加傾向にあるが、学童保育の利用者も5年後をピークに下がっていくと見込んでいる。現状、定員オーバーの施設もある。
  - ・自分が勤務する事業所も子育てに優しい事業所認定を受けており、職員には育児休暇や看護休暇はできるだけ取ってもらっている。園における日々の送迎等からも男性育休が増えていることは実感している。一方で、子どもの急な発熱等の連絡をした際、あからさまに嫌な態度をとる企業もある。また、子どもから離れない保護者もいる。
- 企業側の問題なのか、保護者側の問題なのかわからない。
- 子育ては愛おしい、大事なことだということを伝えていくことが大事

## ◎行政に期待すること

- ・市内企業の魅力が伝わっていない。魅力を発信する機会としてカケジョブを開発したが、現状、認知度が低い。  
→市内の企業の魅力が伝わるような発信が求められる。
- ・カケジョブの積極活用、市の担当者が高校へ行って高校生に直接プレゼンしてはどうか？  
企業のことだけでなく、掛川市の歴史文化なども高校生以下にしっかり伝え、掛川市の魅力を感じてもらう取組が重要。
- ・育児休業制度など制度は充実している一方で、園に0歳児を預ける人が多く、育児休暇が取れない企業が多い印象。実態把握のために市内の企業で働く従業員にアンケート調査を実施してはどうか？  
育児休業が取得できるのか、残業がどの程度あるのか、企業の実態を正しく把握することが重要。
- ・子育てに優しい事業所認定について、夫が認定事業所に勤務しているが、優しさを感じない。女性従業員には優しいのかもしれないが、男性従業員に対しては優しさを感じない。夫婦に優しくないと意味がない。
- ・こども園や保育園・幼稚園の役割は、未就学児の集団教育。こどもを育てるに、もっと価値を見出すことが大事
- ・そもそも子育てと仕事を両立させる、子育てと仕事を同レベルで考えることに違和感を感じる。

## ◎事業所に期待すること

- ・国や市の施策が充実してきているので、中小企業の方にも知ってもらい活用してもらうこと。
- ・制度を活用することで若い世代の人材確保にもつなげていってほしい。

## テーマ② 若者を増やすためには、どのような取組みが有効か？

特に、若者にとって魅力的な職場環境とは・・

## ◎現状

- ・市内に自分が就きたいと思う仕事がないと回答している高校生25.2%というアンケート結果は、市内企業を理解していない層なのでは？  
→市内の4校の生徒830人の内、163人が就職希望
- ・社会の構造として、中高生は進学率を気にして受験する傾向があるのでは？
- ・市内に多い製造業は、こどもにとってはどんな仕事をしているのかイメージしにくい。
- ・問題のある妊婦（特定妊婦）が増えている。産んだのち、育てられない親が増えている。  
少子化だけでなく、育てられない親が増えていることも課題。自分の体・相手の体が大事であること、子育てはかけがえないものであることを伝える必要があり、親支援も重要。
- ・子どもの数をふやすことも大事であるが、社会全体で子育てできる気運醸成も重要。

## ◎若者を増やすための施策

- ・小学生くらいから仕事について考える機会が必要。単に工場見学するだけでなく、仕事とは、お金とは、をもっと考えるべき
- ・小学校のうちからライフデザイン（職場体験や見学）する教育が必要。
- ・将来の掛川市での暮らしの想像度を上げる取組も重要。
- ・子育てのすばらしさを伝えていく。
- ・子どもを育てるということに価値を見出す社会で子育て世代に恩恵を返していくのが理想。

- ・企業のことをもっと知つてもらう取り組みが必要では。  
何を作っているのかだけでなく、その企業で働いている人が、どんな働き方をしているのか、どんな生活を送っているのか、そういうことまでイメージさせることができが大事かも。
- ・製造業に対し、いいイメージを持つ人が少ないかも。日本の成長を支えてきたのは、モノづくりであり、品質の良さである。  
→ここを支えてきた製造業に対する扱いが良くない。仕事の魅力、製造・モノづくりの魅力を伝えるべきでは…。

## 【出会い・結婚支援部会】

### ◎現状の婚活イベントの課題

- ・女性参加が少ない
- ・参加者に真剣さが足りない（無料だから？）、ガツガツしていない、会話が広がらない
- ・20代～30代前半の若い方が少ない

### ◎現代の若者の特徴

- ・コミュニケーション能力が低い（結構重要な課題）
- ・自分らしさの強調が良くない方向に（例：自己紹介で人見知りなので配慮をよろしくお願いします）
- ・人と関わらなくても良いような自己完結する趣味が多い
- ・承認欲求が高い
- ・他人の目を過度に気にする

### ◎若い世代のアプローチについて（保育士について学ぼう！）

- ・こどもと遊ぶと楽しいという思いが大切、重要な機会
- ・保育士要素をもう少しなくしたイベントにてもいいかも

### ◎若者からの意見

- ・大規模なイベントは行きたいと思わないが、趣味が同じ等の小規模イベントなら魅力的に感じる
- ・お酒の場での交流は「怖い」というイメージがある、夜カフェも流行っている
- ・推し活は家族や友だちといけば完結するので新たな交流を求めていない気がする
- ・知り合いに会うのは恥ずかしい、他人の目が気になる

### ◎これからのお出会い・結婚支援施策で必要と思われること

#### 【婚活イベント・マッチングアプリ】

- ・期間・金額を絞ったアプリ登録料の助成（半額・1年助成など）
- ・おせっかいサポートも登録料があった方がいいのかも？（本気度をもって取り組んでもらうため）
- ・行動変容につながるイベント（他人任せではなく主体的に取り組む仕掛け）、自分磨き、身だしなみ講座  
→おせっかいサポート一年8～9回のイベント実施しているので内容の見直し・検討
- ・若い世代向けのイベント（対象を絞って参加者像をイメージしやすくする）を開催
- ・不妊治療等の各種手当で適齢期の方が戻ってきてもらえる制度の充実

#### 【こども・若者の育ちへの支援（学校・家庭・地域等）】

- ・コミュニケーション能力を育む教育
- ・自己分析、自己表現ができる子を育てる
- ・こどもと触れ合う機会の創出（結婚・子育てを身近に感じる、こどもを身近に感じる）